

I 実践

1 研究主題

豊かな人権感覚をみがき、人権意識を高める教育活動の工夫

(1) 主題設定の理由

本校では、県や市の教育目標や人権教育の視点を受け、人権教育の経営方針として「学校教育全体を通して、差別や偏見をなくす人権尊重の教育を推進するとともに、心身の健全な発達を図り、誰とでも公正公平な態度で接していこうとする児童を育成する」ということを掲げている。その実現を図るために、本年度は「豊かな人権感覚や人権意識を醸成する教育活動の工夫と年間指導計画の工夫・改善」を努力点としている。

(2) 研究の内容

ア 教科経営の中で

各教科での学習活動を通して、互いに良さを認めあったり尊重し合ったりしながら、一人一人の児童の良さを伸ばしていく学び合いが展開できるようにする。

イ 道徳の時間の中で

個人の尊厳についての自覚を深めることができるように、生命尊重の心、感謝の心、思いやりの心、公平・公正な態度などを中心に、人としての生き方や感性が身につけられるように努める。

ウ 特別活動の中で

児童の自主的・主体的な活動を重視した様々な活動の中で、互いの良さを認め合い協力し合うことができるようにする。

エ 学年・学級経営の中で

一人一人の居場所があり、自他の良さを感じていけるような温かなかわり合いの場を作りながら、個の良さが生きる望ましい学級集団を作っていくように努める。

オ 総合的な学習の時間

体験学習や課題解決学習の中で、人間的な触れ合いを通して、思いやりや平等、人権の精神の育成を図る。

カ 教科外活動

兄弟学級班を編成し、異年齢集団で協力し合って清掃等を行う。

キ 家庭・地域への啓発

家庭・地域との連携を積極的に図り、人権教育への理解・協力が得られるようにする。

2 実践内容

(1) 教科の中で

地域の身近なお年寄りに昔から伝わる遊びを教わることを通して、昔からの遊びやお年寄りとの触れ合いの楽しさを味わい関心を高めることをねらいとして、第1学年は生活科の学習の中で、ゲストティーチャーを迎えた活動を行った。お年寄りの方々は、児童が活動しやすいようにと、材料等の準備に心を砕いてくださった。

以下に、児童の感想を記載する。

- ・羽根つきがうまくいきました。羽根つきが2回だったのに、6回になりました。楽しかったです。また、羽根つきをやりたいです。
- ・こまを回すときに使うひもは細いけれど、今日使ったひもは、太いところと細いところがありました。うまくできてよかったです。
- ・「小さいわっかが前だよ。」と言ってくれました。わっかにリング飛行機が入ってくれてうれしかったです。

(2) 道徳の時間の中で

人権教育室（茨城県教育庁）で、「とべないホテル」（1 学年）「金色のクジラ」（2 学年）「みんなで跳んだ」（3 学年）「二匹のネコと元気な家族」（4 学年）「海のクモリ」（5 学年）「まさかわたしが！」（6 学年）のビデオを借りて、各クラスで視聴してもらい、その感想を児童に書いてもらった。この感想は人権メッセージに応募もしている。児童の感想文を以下に記載する。

とべないホテルは、なんてかわいそうだと最初は思ったけど、友だちの助けがあった。人の助けがあった。最後は自分のできることをやった。それだけでいいんだよ。（低学年）

肌の色が違うからいじめるのはひどいことだと思います。肌の色が違ってみんな仲良くしないといけないと思いました。（伝えたいこと）みんな仲良く楽しくしてほしいです。（中学年）

他人の個人情報を勝手に流してしまったり、本当なのか分からない情報を広めたりすることは、絶対にしてはいけないことだと思います。また、自分はそう思ってなくても、相手の心を傷つけてしまったりするので、相手の心を傷つけないように、しっかり考えたいと思います。（高学年）

(3) 学校行事の中で

本校では今年度、全児童が青少年赤十字に加盟した。計画委員会の児童が中心になり、6 月に JRC 登録式を行った。赤十字の活動について講師の方がスライドなどで説明をしてくださり、児童は熱心に話を聞いていた。

縦割り班での活動を通し、異学年との交流を図るとともに、相手を思いやる気持ちを育てることをねらいとして、「河小クリーン作戦」を今年度 2 回にわたって行った。

内容

夏季

校舎内外及び校外をきれいにする活動。

秋季

校舎まわりの落ち葉さらいをする活動。

縦割り班の活動では、高学年は低学年の面倒をよく見ながら活動した。特に 6 年生は 1 年生への対応が大変優しくできていた。

II 今後の課題

各教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間、学級経営、生徒指導とあらゆる学校生活の中で人権について考える場や体験活動を設けることで、児童は少しずつ人権について学んでいる。しかし、いじめにつながるような言葉を発してしまったり、あいさつの言葉を言い忘れてしまったりと、人権に対する意識が十分でない児童もまだまだ見られる。日々の小さなことを積み重ね続けることで人権感覚を育てていきたい。また、地域や身近な大人としての教職員は、常に児童の人権教育の手本になるような振る舞いができるよう研修や啓発を充実していきたい。

III 人権コーナー設置の様子

児童の人権メッセージや人権だよりなどを掲示している。

